

令和7年度 山口県立大学 国際文化学部 文化創造学科
総合型選抜 二次選抜

個人プレゼンテーション課題

<問い>

あなたの暮らす地域に、新しく書店ができることになりました。その書店を地域にとって、文化的で魅力的なものにしていくための工夫やプランを提案してください。書店の性質・特色については適宜、設定して構いません。

資料 1、資料 2 を参考に、5 分程度のプレゼンテーションをしてもらいます。そのために、400 文字以内の文章によりプレゼンテーション要旨を解答用紙に記入し、プレゼンテーションに用いる資料として画紙 3 枚を作成してください。

街の書店文化拠点に

スキャナ
SCANNER

和の情報発信 観光の場にも

中：東欧の編集者が見学

9年に開業した同店は、木の内装を生かす。「旬の京都を発信する」をモットーに、約1100平方メートルの店内には和の雰囲気漂う。京都関連の本が充実し、外国人観光客が目立つ。イベントスペースもそなえる。国際交流基金の招きで4日、中・東欧の編集者11人が見学に訪れた。ポーランドの出版社オーナー、アドリアンナ・ボシンスカさん(43)は、「ポーランドでも、にあった書店を引き継いだ。現在、佐賀市と2店を営む。経営の経験を踏まえ、本に限らず、現在は様々なコンテンツが充実する。書店は夢だけではできない。経営を教え、書店を始めた人を支援する仕組みがあればいい」と提案する。都心の港区で森ビルが開発を進める六本木ヒルズや麻布台ビルズは、テナントに書店が入る。来訪者の調査では、街の利用者の「ほい施設・店舗」のアンケートに「書店」がよく挙げられている。書店は利益率が低いものの、街の知的なイメージやコミュニティ作りにもつながることから賃料を抑えている。

現在の日本では、普段から読書に親しむ人はそれほど多くない。文化庁の国語に

書店の生き残りは大変です。日本の書店は本を主体に季節感のある雑貨を美しく配置し、また来なくなる場になつていった」と驚く。同基金によると、海外では日本の漫画のほか、「コンビニ人間」で注目された村田沙耶香さんや川上未映子さんの現代女性文学に関心が高まっている。実際に書店で本に触れることを望む関係者も多いという。(大阪文化部 中井道子)

国が支援PT

減少歯止めへ本好き増やす

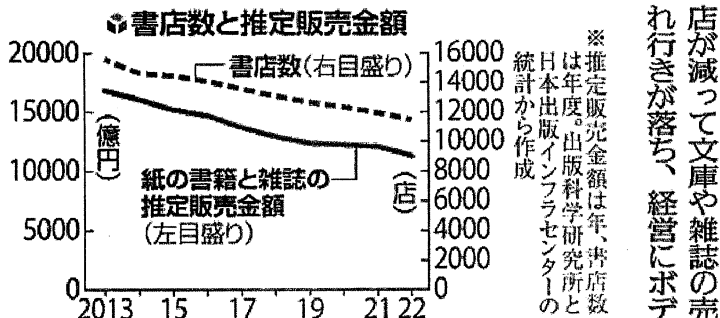
地域文化振興の拠点として街の書店を位置づけ、支援する大臣直轄の「書店振興プロジェクトチーム」を経済産業省が5日に設置した。全国で書店が減る中、関係者の期待は大きい。具体的な支援メニューの作成に当たっては、本好きだけでなく、無読層へのアプローチも課題となる。

(文化部 小杉千尋、池田創)

車座ヒアリング

「街中にある書店は多様なコンテンツに触れることができる場所として地域に親しまれ、創造性が育まれる文化創造基盤として重要である」と認識をしており、プロジェクトチーム設置について、林官房長官は12日の記者会見で述べた。

今回のプロジェクトチームは、経済産業省が部局横断型で進めるものだ。今後、早期に書店関係者らと車座ヒアリングを開く。カフェを併設し、魅力的な読書空間を作るなど優れた事例を共有し、要望を探るといふ。書店振興は、出版社の経営にも広く影響する。「書



ピークの4割以下

取り組みに期待が高まるのは、紙の出版物の不振とともに全国の書店減少が止まらないためだ。出版科学研究所によると、2023年の紙と電子を合わせた出版市場規模は、1兆5963億円。紙に限ると1兆612億円で、ピーク時の1996年の4割以下だ。紙の出版物は、薄利多売の経営モデルで、書店の取

り分は売り上げの2割余りと小さい。かつては雑誌と文庫、漫画が経営を支えたが、インターネットの普及に伴うネット書店の台頭、配信サービスなど娯楽の多様化でこの構造は崩れた。日本出版インフラセンターによると、2022年度の書店の総店舗数は1万1495店で、13年度と比べ約4100店減った。

一方、書店は地域の文化を担い、住民の愛着が強い。東京都杉並区のJ.R阿佐ヶ谷駅前では2月10日、「ハチ八重洲ブックセンター」が開業した。この地

個性豊かな書店の取り組み

往来堂書店(東京都文京区)

- オリジナル文庫フェア「D坂文庫」
- 客の興味をかきたてる「文脈棚」と呼ばれる個性的な棚作り

ブックハウスカフェ(同千代田区)

- 子どもの本の専門店、読み聞かせイベントも充実
- カフェやバーを併設

ざわや書店(本店・盛岡市)

- 出張販売など、地元に根ざす
- 県内のメーカーと連携し、オリジナルしょうゆを販売

約350平方メートルの店は大勢の客で連日にぎわい、「この1か月で手応えを感じた」と話す。今後、読書イベントの開催も予定する。作家の今村翔吾さんは大阪府箕面市で、閉店の危機

きつかけ作り

書店の支援は文化に関心を持つ人々を増やし、社会の知的な創造力を高めることにもつながるはずだ。

以下の表は、全国 18 歳以上の日本国籍を有する 3,000 人を対象として、2023 年に行われたアンケート調査の結果をまとめたものです。

調査の中で、「あなたは、「文化」という言葉に対して、どのようなイメージを強く感じますか。この中から 2 つまであげてください」と尋ねたところ、以下の表に示した結果となりました。回答は、それぞれの回答者数を母数とした百分率（％）で示しています。

	全体	年齢別						
		18-19 歳	20-29 歳	30-39 歳	40-49 歳	50-59 歳	60-69 歳	70 歳以上
回答者数	3000	62	339	384	502	484	433	796
歴史的な建物や遺産が保存されていること	38.5	38.7	31.3	38.0	38.4	39.9	39.7	40.5
伝統的なお祭り・行事・芸能などのこと	32.3	35.5	27.1	38.0	35.1	33.9	31.9	29.0
生活の中での文化（茶道・華道・書道・食文化など）のこと	25.2	17.7	16.5	22.4	23.9	28.5	27.7	28.3
美術・音楽・演劇・ダンスなどの芸術のこと	19.8	22.6	20.9	18.0	18.1	18.2	21.7	20.9
新しいものが創造されていること	8.4	8.1	8.6	5.7	5.2	7.2	9.0	12.1
学問が盛んで教育水準が高いこと	7.9	8.1	9.4	7.0	4.0	5.6	7.9	11.4
科学や技術が発達していること	6.2	6.5	6.2	5.7	5.0	5.0	4.8	8.7
映画、マンガ、アニメーション、ゲームなどのこと	5.7	16.1	8.8	9.9	7.2	5.2	4.2	1.6
その他	0.8	1.6	0.3	-	0.2	1.7	0.9	1.0
特にない	10.7	3.2	9.7	9.4	12.5	10.3	11.3	11.1
わからない	11.8	12.9	19.2	13.5	13.9	12.0	9.0	7.8

（出典 文化庁『文化に関する世論調査報告書』文化庁地域文化創生本部、2023 年、p. 46 による。以上の表に、項目を一部省略し、体裁について最小限の手を加えた。）

令和7年度 山口県立大学 国際文化学部 文化創造学科 総合型選抜 二次選抜
〈個人プレゼンテーション〉 出題意図

【資料1の出典】

〔スキャナー〕 街の書店 文化拠点に 国が支援 PT
2024年3月13日 『読売新聞』東京朝刊 p.3 (全2,121字)による。
(紙面は、項目を一部省略し、体裁について最小限の手を加えた。)

【資料2の出典】

文化庁『文化に関する世論調査報告書』文化庁地域文化創生本部、2023年、p.46
による。
(表は、項目を一部省略し、体裁について最小限の手を加えた。)

【出題意図】

資料1、資料2の内容を踏まえ、地域社会における文化的基盤としての書店のあり方について、自らの考えをプレゼンテーション要旨にまとめさせる。そして、ことばや絵・デザインなどの情報を用いた画紙3枚を使用して、適切な表現でプレゼンテーションしていく能力をはかる。

プレゼンテーションを通して、日本文化や地域文化の価値を評価し、また、異なる文化や多様な考えを持つ人々と交流し、地域文化の活性化に貢献していくための、知識・理解、思考力、判断力、表現力、主体性を評価する。

(232字)